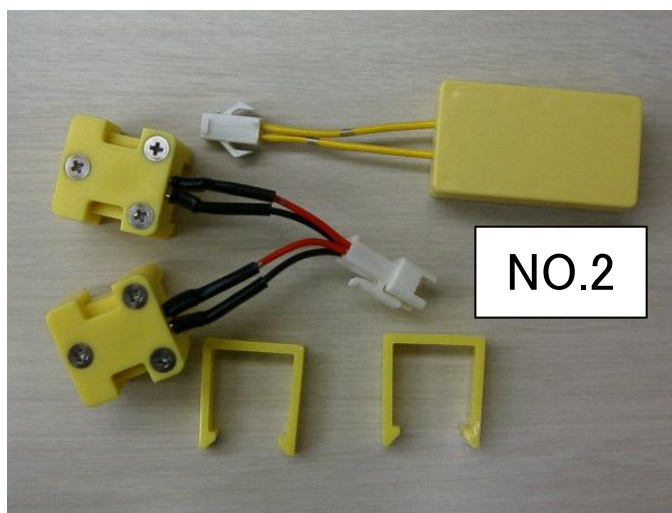
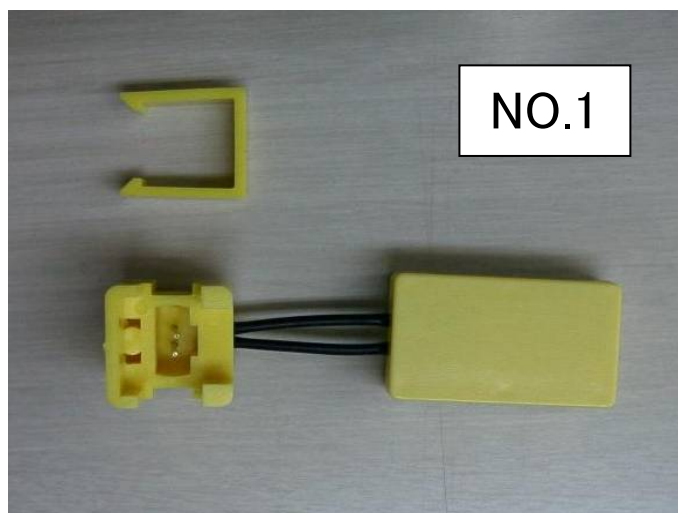


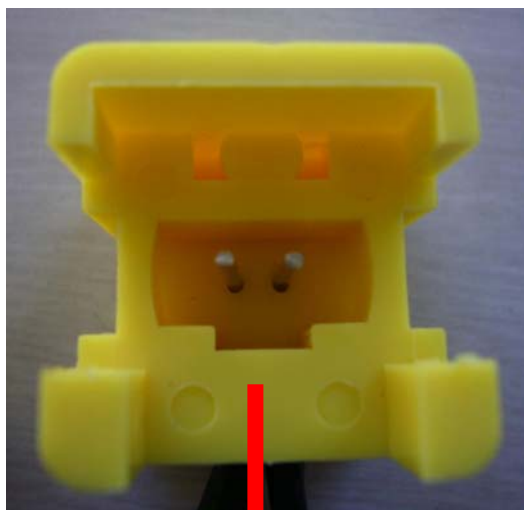
下記画像の「NO.1」と「NO.2」に該当するダミーハーネスをご使用にて警告等の点灯になりうる注意点をご案内します。形状が該当しない場合は不要となります。

「NO.1」は<注意1>のみを「NO.2」は<注意1>と<注意2>の両方をご参照下さい。

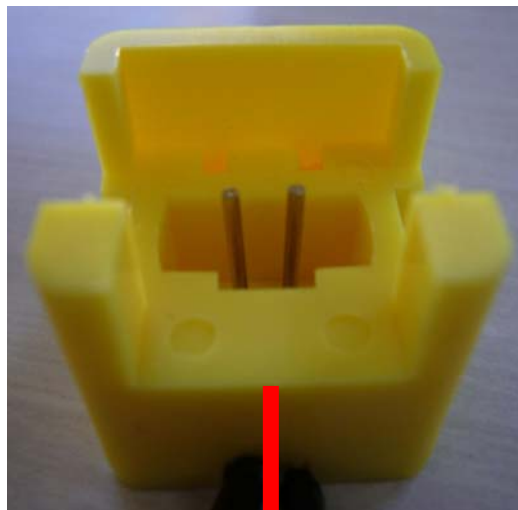


<注意1> 車側から出ているエアバッグカプラーを接続するに当たりダミーの線材が点でしか接続しないため認識が甘くなるケースがあります。そのため警告灯が点灯してしまう場合があります。対策として接点を強く上げるために線材をややハの字に広げ接続した時に広がる力で接点を強くします。画像のハの字は控え目ですがもう少し広めに広げてあげると接点が強くなります。

上から



斜めから



加工前

加工前

上から



斜めから

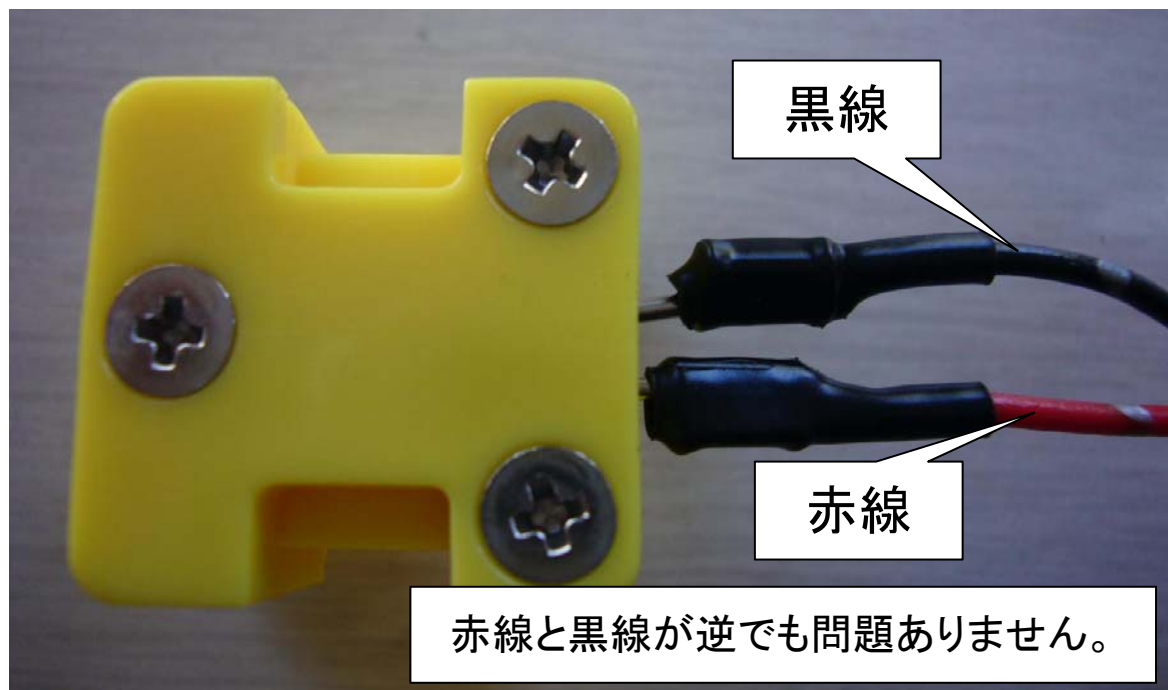


加工後

加工後

加工後の様に若干ハの字に広げる事で線材がエアバッグカプラーに入った時に広がる力が加わります。エアバッグカプラーとの接続時は少し線材を寄せながら端子に接続させます。それにより接点が強くなる事で警告等の点灯要因を回避する事が出来ます。車は常に振動しています。点と点で接している端子は振動の影響を強く受けてしまいます。

<注意2>「NO.2」に該当するダミーハーネスはとても複雑な構造をしております。  
下図の赤線と黒線の根元部分が端子で圧着され被服チューブで絶縁処理をされておりますが、端子同士が触れ合うと微細な電流で短絡してしまいダミーハーネスとしての機能が発揮出来ない症状が現れる事があります。そのため赤線と黒線の被服チューブ部分が触れない様に必ず隙間を開けて下さい。



生産ロットにより赤線と黒線が逆になっている物もありますが機能上何ら問題はありません。  
一つのカプラーに赤と黒が入っていれば動作に支障はありません。



上記の作業を行う事により未然にエアバッグ警告等の点灯を防ぐ事が出来ます。